

三鷹市所蔵

太宰治資料展

6/6(金)~11/16(日)

三鷹市がこれまでに太宰治顕彰事業で購入した資料と、ご遺族や関係者より寄贈・寄託された資料を2期に分けて、一堂に公開します。
昨年三鷹市が購入した直筆原稿「雀」の全頁も初公開します。

I 期

令和7年6月6日(金) から9月7日(日)

(休館日) 6月9、16、23、25~30日

7月1~4、7、14、22、28日

8月4、12、18、25日/9月1日

撮影：田村茂

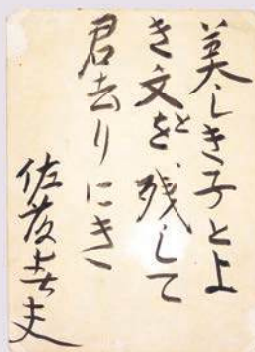
I 期 桜桃忌編

下連雀113の借家を終の住処とした太宰治が、近隣を散歩しながら禅林寺に立ち寄っていたことが「花吹雪」(昭和19年)に描写されています。

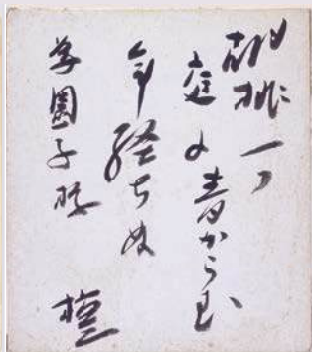
この寺の裏には、森鷗外の墓がある。どういふわけで、鷗外の墓が、こんな東京府下の三鷹町にあるのか、私にはわからない。けれども、この墓地は清潔で、鷗外の文章の片影がある。私の汚い骨も、こんな小綺麗な墓地の片隅に埋められたら、死後の救いがあるかも知れないと、ひそかに甘い空想をした日も無いではなかったが、今はもう、氣持が畏縮してしまつて、そんな空想など雲散霧消した。私には、そんな資格が無い。

美知子夫人が昭和24年6月に太宰の墓を鷗外の墓のはす向かいに建立し、夫の願いを叶えました。以降、太宰の生誕日の6月19日には、生前から親交のある人たちによって桜桃忌が営まれるようになりました。

I 期は、晩年の太宰治の三鷹での創作活動と桜桃忌について紹介します。錚々たる作家が太宰を偲んで認めた色紙や短冊、親しい人たちが集い賑わう桜桃忌の写真などからは太宰への愛着が伝わります。



佐藤春夫、檀一雄が七回忌の桜桃忌の席で太宰の妻子に贈ったサイン帳と色紙(津島家寄託)



桜桃忌写真、桜桃忌開催通知葉書(石井立文庫)



太宰治展示室
三鷹の此の小さい家

会場 三鷹市美術ギャラリー 太宰治展示室 三鷹の此の小さい家
(三鷹市下連雀三丁目35番1号 CORAL 5階)

観覧料 無料

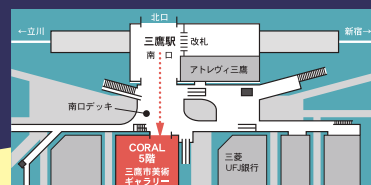
問合せ TEL:0422-79-0033

● JR中央線三鷹駅南口デッキを直進しCORAL2階入口からお入りください。

● 駐車場はCORAL地下駐車場(30分200円)をご利用ください。

駐輪場はCORAL駐車場の入口横のスロープを上がり2階です。

<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/dazaihouse/>



三鷹市美術ギャラリー 太宰治展示室

太宰治資料展

Ⅱ期

令和7年9月13日(土) から 11月16日(日)

(休館日) 9月16~19、22、29日

10月6、14、15、20、21、27日

11月4、5、10日



撮影：田村茂

Ⅱ期 交流編

太宰治の自宅には、同じ文筆業の先輩や友人、弟子はもちろん、編集者、画家、学生が訪れ、書斎兼応接間の六畳間で文芸や美術に関する談議を重ねました。太宰作品には彼らとの交流が描かれているものもあります。

三鷹市には、下連雀に転居するきっかけを与えた画家の鰭崎潤、弟子の田中英光や小山清、筑摩書房の編集者石井立、太宰が世話になった三鷹の住人に贈った署名本などの資料が寄贈・寄託されています。

Ⅱ期は、太宰と文化人たちの交流を物語る資料を公開します。

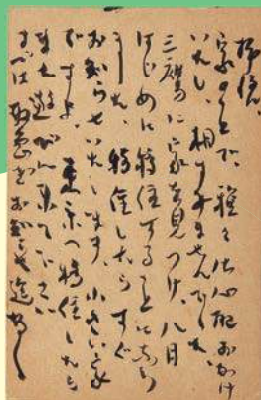
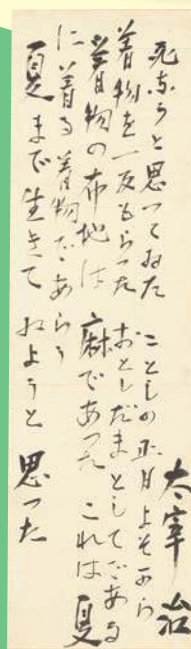
(左) 太宰治 自宅の表札
昭和14年9月以降(※原物公開は6月6日から6月22日まで、以降複製を展示)

戸籍名に括弧書きで筆名が墨書された、木製の菓子折の箱を加工した手製の表札。玄関の左の柱に太宰が打ちつけたという。

(津島家寄託)

(右) 太宰治「葉」冒頭書
昭和20年頃

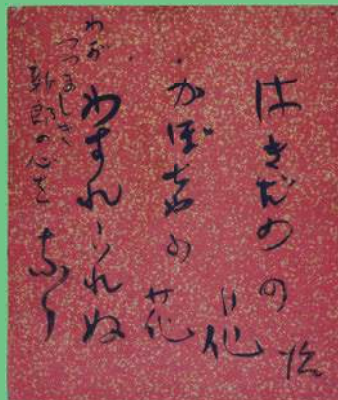
疎開中の太宰が弟子の小野才八郎に認めたもの。



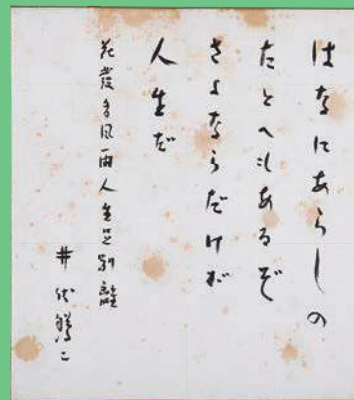
太宰治 鰭崎潤宛葉書
昭和14年7月19日付
三鷹に家を見つけ、8月初めに移住する予定だと報告している。太宰が実際に三鷹の住民となったのは9月1日のこと。(鰭崎家寄託)



太宰治《鰭崎潤》油絵
昭和14、15年頃 226×150
太宰が鰭崎のアトリエで制作した肖像画。(鰭崎家寄託)



太宰治 田中英光宛色紙
「はきだめの花 かぼちゃの花 わすれられぬなりわがつつましき 新郎の心を」
昭和12年
太宰が田中英光の結婚祝いに贈ったもの。
(津島家寄託)



井伏鱒二色紙「はなにあらしのたとへもあるぞよならだけが人生だ」
年代不詳
井伏が唐代の詩人、于武陵の「勸酒」を訳したもの。
(石井立文庫)